

12

「こころが動く、通う」をどう測る？

～主観・生理・行動からみた共感的コミュニケーションの分析～

どんな研究

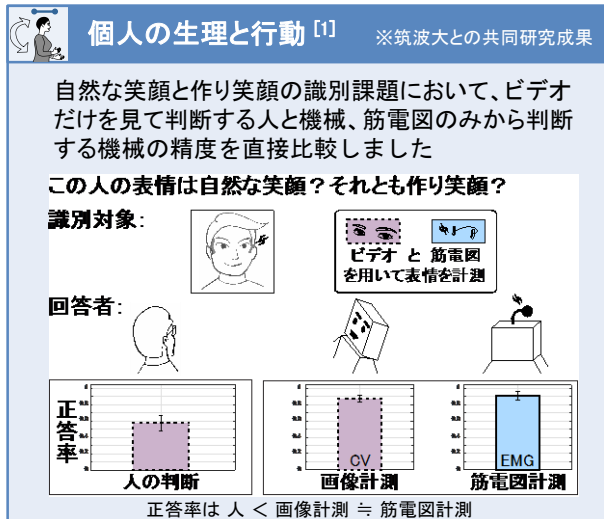
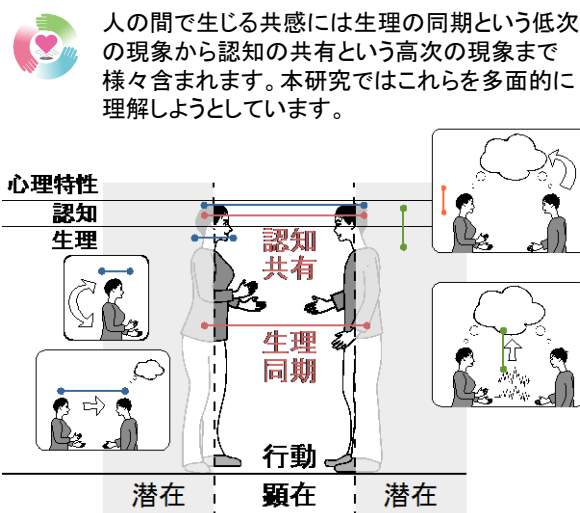
共感とは人が社会的な生活を営む基盤ですが、主観・生理・行動から構成される複雑な現象であるため、その仕組みはまだ十分に解明されていません。本研究では、**共感を多面的に理解するために定量化**し、そこに含まれる個人差を考慮した方法論を提案していきます。

どこが凄い

個人の中で**生理と行動**がどのような関係にあるのか、複数の個人の間で**情動**がどのように伝わるのかを明らかにしました。さらに、個人差が大きい主観の分析において、複数人のデータを集約する集合知のアプローチと、心理特性にもとづく**個人差を含むモデル構築**の両方に取り組んでいます。

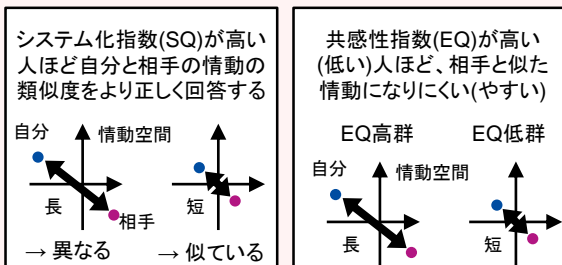
めざす未来

共感を個人差を含めて定量化する枠組みが整えば、一人一人にあわせた**共感を促す介入**やその**効果の評価・予測**が可能になります。他者との関わりがより豊かになれば、ウェルビーイング(心身の潜在能力を発揮し、いきいきと満足して生きること)の向上にもつながると期待されます。



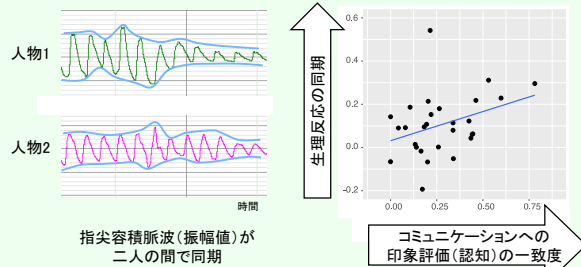
個人間の情動伝染の認知と心理特性 [2]

どのような人が他者と似た情動になりやすく、また、似た情動になっていることを正しく認知しやすいかを類似性判断理論にもとづき解明しました



個人間での生理の同期と認知の共有

協力課題を実行中に、生理反応が同期すること、生理的同期が高いほど「場」に対する印象(認知)も一致しやすいことを明らかにしました



関連文献

- [1] M. Perusquia-Hernandez, S. Ayabe-Kanamura, K. Suzuki, S. Kumano, "The invisible potential of facial electromyography: A comparison of EMG and computer vision when distinguishing posed from spontaneous smiles," in *Proc. CHI Conf. Human Factors in Computing Systems (CHI)*, 2019.
- [2] L. Antaköt, M. Matsuda, K. Otsuka, S. Kumano, "Analyzing generation and cognition of emotional congruence using empathizing-systemizing quotient," *International Journal of Affective Engineering*, Vol. 17, No. 3, pp. 183-192, 2018.

連絡先

熊野 史朗 (Shiro Kumano) 人間情報研究部 感覚共鳴研究グループ
Email: cs-liaison-ml at hco.ntt.co.jp



Innovative R&D by NTT

オープンハウス 2019

Copyright © 2019 NTT. All Rights Reserved.